

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分  
例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67 (八幡建設 2F)  
TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005  
E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp  
URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長：西川 昇  
副 会 長：村土時男  
幹 事：岩尾 誠  
広報委員長：森下 光  
会報担当者：國田大雄・前田伊三夫

2017 年度国際ロータリー会長：イアン・ライズリー (Sandringham ロータリークラブ・オーストラリア)  
2017 年度国際ロータリーテーマ：ROTARY: MAKING A DIFFERENCE (ロータリー：変化をもたらす)

<本日のプログラム>

第 2530 回 平成 29 年 11 月 2 日 第 1 木曜日  
財団・米山卓話  
水上成樹委員長

<次回の予定>

第 2531 回 平成 29 年 11 月 9 日 第 2 木曜日  
郡上長良川 RC・郡上八幡 RC 合同例会  
午後 6 時 30 分より「勝美屋」にて

<前回の記録>

第 2529 回 平成 29 年 10 月 26 日 木曜日  
外来卓話 郡上八幡観光協会  
副会長 河合 徹様

司 会 進 行 西村 肇 SAA

点 鐘 西川 昇会長

ソ ン グ 郡上八幡ロータリーの歌

来 客 紹 介 前田伊三夫会員  
郡上八幡観光協会 副会長 河合 徹様

マルチプル・ポールハリスフェロー授与式

- ・マルチプルフェロー7・・・大畑於左武会員
- ・マルチプルフェロー1・・・田代東次郎会員



出 席 報 告 畑中伸夫担当責任者  
前回(第 2528 回)分

会員数	出席	補正	合計	出席率
39 名(免除 1 名)	20 名	15 名	35 名	92.1%

本日分

会員数	出席	補正	合計	出席率
39 名(免除 1 名)	28 名	7 名	35 名	92.1%

ニ コ B O X 廣瀬泰輔担当責任者

- ・10 月 12 日に行われました郡上警察署での奉仕作業に参加の皆様、ご苦勞様でした。西川昇
- ・郡上八幡観光協会副会長 河合様、よろしくお願ひします。岩尾 誠・村土時男
- ・郡上八幡観光協会副会長 河合徹様、卓話よろしくお願ひします。小坂慶一
- ・河合様、忙しいスケジュールの中、ありがとうございます。本日の卓話よろしくお願ひします。前田伊三夫
- ・知らない間にマルチプル 8 回目を受章しました。皆さんのご協力にあらためて感謝致します。

大畑於左武

- ・先日の奉仕作業時、カギを失くし、皆さんにご迷惑をおかけしました。出てきて本当に良かったです。ありがとうございます。山下友幸
- ・会員誕生日のお祝をありがとう。遠藤主税
- ・夫人誕生日のお祝をありがとう。山下友幸
- ・郡上八幡観光協会副会長 河合徹様、お越し頂きありがとうございます。歓迎致します。この後の卓話もよろしくお願ひ致します。畑中伸夫・羽田野優男・廣瀬泰輔・河合 修
- ・國田大雄・三原慎也・森下 光・村井義孝
- ・西村 肇・野田三津雄・小笠原正道・奥村芳弘
- ・大畑於左武・坂本 仁・澤崎 茂・竹内巧治
- ・山川直保

幹 事 報 告 岩尾 誠幹事

- ・地区財団委員会より、2018~2019 年度地区補助金申請と財団地区補助金奨学生募集について
- ・関中央 RC より、IM の受付と駐車場について
- ・各務原かかみの RC より、グループゴルフ大会の

組み合わせについて

- ・各務原中央 RC より、グループ内第 2 回会長・幹事会の案内
- ・各務原・郡上長良川・各務原中央・各務原かかみの RC より、例会変更の案内
- ・ぎふ犯罪被害者支援センターより講演会の案内
- ・郡上市環境水道部より、「郡上市清流シンポジウム」の開催について

< 拝受 >

- ・地区大会実行委員会より、大会参加のお礼状
- ・米山奨学会より、「ハイライトよねやま 211 号」
- ・関 RC より、創立 50 周年記念誌
- ・桑名北 RC より、週報

## 委員会報告

### ・三原慎也財団委員

「100 万ドルの食事」のお知らせ

### ・山下友幸親睦委員

合同例会の案内…11/9(木) 18:30 勝美屋にて

## 会長の時間 西川 昇会長



10 月 12 日に行われました社会奉仕委員会の計画で、郡上警察署美化活動に対しましては、天候にも何とか恵まれ、怪我・事故もなく、限られた時間ではありましたが、

当所の目的を十分に達成した充実した作業ではなかったかと思えます。こうした事に際しましては、委員長は元より皆様方の深いご理解・ご協力のおかげと深く感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。また、10 月 14 日・15 日に行われました地区大会、親睦旅行に参加の皆様ご苦勞様でした。

本日は、今年 5 月 13 日に四日市都ホテルでありました地区の会員増強研修セミナーにおいて、第二ゾーンロータリー公共イメージ・コーディネーターの高野孫左エ門氏(甲府 RC)による特別講演より抜粋したものをご紹介します。

『クラブが活性すると、成果が出る。成果が出ると、地域の認知度が上がる。認知度が上がると、ロータリーの理解者が増えて、私もロータリーに入りたいという仲間が増える。仲間が増えるとクラブが活性化すると。こういう循環、どこがスタートかゴールかは別として、スパイラルの中でロータリーの活動は、時間、時を重ねているのだらうと思えます。増強というのは、仲間を増やすところの話になります。このために何をしますか?』という、理解者を増やす、その為には、ロータリーをよく知って頂く。良いことは黙ってするものだ、良いことは黙ってするという日本文化の特性はありますが、一方、伝えなければ知れないという時代に入ってきています。』

## 外来卓話 郡上八幡観光協会

副会長 河合 徹様



### 郡上八幡と観光

#### 1. 郡上八幡の観光の現状

郡上八幡は、旧郡上郡八幡町の通称名として使われている。岐阜県の中央に位置し人口 1 万 5 千人ほど(郡上市全体の人口は約 4 万 8 千人)の城下町である。平成 16 年 3 月旧郡上郡 7 ヶ町村が合併し、現在は郡上市八幡町になっている。

郡上八幡は、土地の 90%以上が山林であり、年間総雨量が 2800 ミリ、年間平均気温が 12.3 度と高温多湿の地で、石灰岩を含む複雑な斜褶曲構造のため保水力に恵まれ、豊富な湧水や冷泉がいたるところに見られる。

永禄 2 年(1559)郡上八幡城が築かれ郡上一円の政治経済・文化の中核として発展してきた。第 6 代藩主遠藤常友は、城下の大火災をきっかけに町並み整備を手がけ、基盤の目にそった町家づくりとともに、軒下に水路を巡らせた。また路地のつきあたりには寺を配し避難場所とした。間口が狭く奥行き長い町家や、防火のための袖壁、紅殻格子など、今もその風情を残している。

現在郡上八幡を訪れる方の主な目的は、「郡上おどり」「市内散策」「魚釣り」等であるが、1970 年代後半までの郡上八幡の観光は、「郡上おどり」、「郡上八幡城」、「鍾乳洞」を観光の主力としてきた。観光地づくりとしての意図的な政策があまりなく、単に受け入れのための環境整備や目先のサービスが主流であった。歴史的な文化遺産等の資源を「食いつぶす」に過ぎなかった。そんな中であって、昭和 57 年度の「水空間を生かした町づくり構想」や、昭和 59 年 3 月「水とおどりと心のふるさと」をテーマとする新・八幡町総合計画が示された。また、平成 60 年には環境庁の名水百選に宗祇水(県史跡)が選ばれ、第 1 回全国水環境保全シンポジウムの開催などがあり、「水」や、「町並み」を中心とした町づくりの気運が高まっていた。

昭和 62 年“景観を生かしたまちづくり”を基調とした「八幡町アメニティマート構想」が策定され、アートピアふるさと会員制度の導入は同大使を任命し、県外での郡上八幡を思う人を含めた町づくりが進められた。また、市街地整備では点から線、線から面に向けた散策ルートのための「郡上八幡ポケットパーク構想」や、郷土料理としての「グルメ猪鹿鳥」が民間の手で創作された。昭和 63 年、八幡町の愛称として活用するために「郡

上八幡宣言」が行なわれた。新・八幡町総合計画では、町づくりに関し「町民、事業者、行政がそれぞれの役割と責任を自覚し、互いに信頼しあい、一体となって現実する。」としている。

現在では、水環境の整備、町並み保存等のハードと郡上八幡産業振興公社が行っている「町並み観光案内人」「食べ歩き」「達人座」「合宿文化村」「郡上おどり体験」などのソフト事業がうまく絡み合っており、夏場だけでなく、通年で多くの観光客に訪れていただけるようになった。

## 2. 郡上おどり

山間地であって、人情こまやかな里人が、いつの時代いかなる圧制にもくずれることなく、常に心のよりどころとして育んできたのが「郡上おどり」である。奥美濃地方をはじめ飛騨の歴史をつづる「飛州志」によれば、文禄4年(1595)朝鮮戦役の勝利を祝っておどりを踊ったとの記述があり、これを起源(1590年)としている。

例年は7月中旬から9月上旬まで30数夜行われる。郡上おどりは、ゆっくりしたテンポからリズムカルなもの、または、三味、太鼓、横笛など鳴り物が入る曲から、唄のみで踊るものなど多種多様で、踊りの1フレーズが易しく、巧みな10曲の組み合わせによって夜を徹して踊れる工夫がされている。10曲全てが国の重要無形民俗文化財に指定されている。

郡上おどりは、縁日を取り持つ地区の自治会や、奉賛会、団体等が主体となっている。いわゆる郡上おどりは縁日の集まりであり、祭礼の後に踊られその町内や、近所から集まってきた人たちの娯楽の場であり、コミュニケーションの場でもある。

8月の徹夜おどり4日間を含め30数夜にわたる郡上おどりは、おそらく全国に例のないロングランのイベントである。これを支える市民や関係者の踊りに対する熱意や理解は今も続くが、世代交代や高齢化による伝統的な行事の維持や、その意味合いが薄れつつある現実に危機感を訴える声もある。縁日をたてる理由や、世話人が高齢化している現実も含め、今後どう対処(変化)していくのか、今問われつつある大きな課題である。

郡上おどりの最大の特徴と魅力は「参加する踊り」というところである。全国には多くの民謡があるが、その多くは見る民謡、見せる踊りである。美的な芸術性や技能の高さを特徴とするが、郡上おどりは参加することそのものが特徴である。やや画一的な中で生活させられているような社会背景であって、踊り手自らの体の動きが、自由な自己表現の場や機会になっているところに大きな魅力があると思われる。

郡上おどり保存会は、大正11年に有志によって結成された。踊りの輪が年々大きくなり、その運営や踊り場の整理のために各町内に呼びかけたのが始まりとされている。現在は、会場でのお囃子と踊り場の整理の他、郡上おどりの上手な人に審

査を経て郡上おどり免許状を交付している。保存会の費用弁償は、踊り期間中以外での出張公演を除いて無報酬である。例年、郡上おどり日程に出役した保存会員は延べで約1,700人になる。郡上おどりの保存継承については長年の課題であったが、平成に入り、将来を担う子どもたちへ郡上おどりを伝えていく機運が盛り上がり、各小学校下の地区公民館を中心に、小中学生を対象としたジュニアクラブが立ち上がった。指導講師は、保存会員を含め地域の民謡クラブ会員らも加わり講習会が行われ、今も活動が続けられている。さらに、一般社会人の有志によるおはやしクラブが公民館単位で結成され、縁日踊りの開始前の演奏や、地区での盆踊り大会等で活躍している。

## 3. 水を生かした町づくり

郡上八幡は水の町である。清流と山に囲まれているため湧水が豊富である。町のいたる所を用水が流れ、夏には多くの子どもたちが川遊びを楽しむ。

昭和48～52年にかけて多摩美術大学渡部一二教授らが中心となった水環境調査研究グループが八幡町市街地内の水路、洗い場・カワド、井戸、水屋や水舟などによる伝統的水利用施設について調査を行った。近世初期の城下町整備による水路と河川・地下水・山水・湧き水などを利用した伝統的な水利用形態が残るものとして、その調査結果は日本建築学会で発表され、郡上八幡が水の町として全国へ発信される契機となった。

同時に自治会や女性の会、さつきの会などでは水環境への取り組みが始まり、八幡町では昭和59～平成9年に水を活かしたポケットパークの整備を行った。その一つであるいがわ小径は、近隣住民のため水路の共同洗い場として改修され、水路に魚が放たれている。この水路による景観は多くの観光客の興味を引きつけ、現在は観光資源となっている。

## 4. 町並み保存

水路整備に先立ち、住民組織として全戸加入の町並み保存会が3町内で発足された。昭和61年柳町町並み保存会、続いて平成3年に職人町町並み保存会、平成5年に鍛冶屋町町並み保存会が発足され、何れも水路部会、景観部会、建物審査部会により構成される。

歴史的な水路整備では各戸の前にはせぎ板を落とす溝をつけた郡上石三面張りの水路に改修し、これにより水路と町並みと町家による景観が形成された。また同町内の水路には新たにポケットパークを行政で整備し、町並み保存会の水路部会と景観部会がこれら水路とポケットパークを管理している。現在、この3町内は、用水路も開渠となっており、古い町並みとして人気の高い観光散策コースとなっている。

## 5. 町並みを活かしたまちづくり

### ①建物審査による景観形成

上記町並み保存会では建物審査部会として、伝統的な町家を継承する意匠や要素を取り入れた建築基準を定め、住民で組織した建物審査委員会により審査を行ってきた。先述した町並み環境整備事業のルールづくりでは平成14年度に9自治会が町並みづくり町民協定(中央地区)を定め、平成16年1月には21自治会で、住居系建坪率の緩和と併せて協定を締結した(東部・北部・南部地区)。ここでも自治会から選出された建物審査委員による審査委員会で審査を行っている。

平成26年2月郡上八幡の北町地区の一部が、伝統的建造物群保存地区に指定された。

## ②郡上八幡市街地まちづくり協議会の活動

平成10年に発足したまちづくり協議会では、活動形態を変えながら第3期行った。それぞれの部会で活動がなされているが、これまで空き家活用実験に主体的に関わったり、空き地や駐車場に板塀を設置する板塀プロジェクトを進めている。

## ③交通体系の整備

市街地の水辺空間や町家群を活かした景観形成が進められる中、都市計画道路の見直しが行われ、市街地の景観に大きな影響を及ぼす町の中心を南北に縦断する都市計画道路が平成15年に廃止され、安価で乗降しやすいコミュニティバス(まめバス)が導入された。また、これまで整備が進められてきたバイパス道路と併せて大型バスの市街地内乗り入れを計画誘導している。これら交通体系の整備により近世初期に整備された城下町の姿をその通りや地割りに見ることができる。

## 6. 郡上八幡観光協会

昭和27年4月発足。翌年の28年には郡上おどり発祥記念碑の建立とともに、念願であった総繪造りの踊屋形の建造に総力をあげて取り組みが行われた。昭和29年6月名古屋市において全日本観光連盟総会が開催され、郡上おどりの出演とともに、郡上八幡の観光宣伝が精力的に進められた。

郡上おどりは、昭和30年代に全国的に脚光をあびることとなる。

昭和57年、NHK銀河テレビ小説「旅人」のロケ地に選定を受けるとともに、昭和60年には、環境庁が行う「名水百選」の湧水部門で「宗祇水」が紹介され、人の生活と水が注目を浴びることになり、踊りを中心とした夏型観光から、春、夏、秋を中心とした通年型観光のきっかけを作ることとなった。

昭和59年、協会に専任の事務局員を配置するとともに、観光協会内に誘致部門及び施設部門等の部制をとり組織体制の強化が図られた。これまでの会員数100弱から大幅な会員増となっており、現在は350名ある。

主な活動として、郡上おどりを中心とした観光キャンペーン、郡上おどり提灯の設置、ボンボリ灯(171基)の管理、夏夜の川辺の風情を盛り上げるカンテラ(万灯)250個を設置、過去には吉田川

ジャンプコンテストの開催(H19から廃止)などがある。

また、全国各地のイベント等で物産販売を行い地域PRに努めている。

平成元年には、長年要望してきた東京銀座祭りでの郡上おどり出演が決定、翌年にはロサンゼルス公演を、平成20年には郡上おどり in トロントなどの海外公演も、観光協会を中心とした実行部隊を編成し実現した。平成3年には郡上おどり発祥400年を記念し、「郡上おどりを通しての町民の思い出づくり」をテーマとした多くのイベントが開催された。特に観光協会が担当した「全国3大盆踊りの競演」には、多くの町民がそれぞれの民謡に参画した。

平成6年、郡上藩の下屋敷が東京青山にあったことの縁から、青山外苑前商店街振興組合と郡上八幡観光協会との共同事業として港区青山梅窓院を会場にして郡上おどりをを行う「郡上おどり in 青山」が始まり現在も行っている。現在は、秩父宮ラグビー場駐車場に会場を移し開催している。

## 7. 郡上八幡産業振興公社

平成6年5月に八幡町役場が新庁舎へ移転したことに伴い、昭和11年に建設され長年町民に親しまれてきた旧庁舎及びその一帯の新たな活用方策が検討された。結果、“観光を機軸とした産業振興の拠点施設”として整備・活用する方針が定まり、平成10年より改修工事に着手。同年、旧庁舎本体及び付属の土蔵が国登録文化財に指定され、名称も「郡上八幡旧庁舎記念館」と決定した。

合わせて、産業振興にかかわるイベント・コンベンション並びに新たな観光開発事業を積極的に展開し、郡上八幡の発展と観光交流を機軸とした産業振興を図る運営組織として、八幡町の呼びかけにより商工会・観光協会等の経済団体(10団体)が基金造成を行い、平成11年7月に郡上八幡産業振興公社が設立された。・・・中略・・・

## 8. 今後の展開

平成20年7月5日に東海北陸自動車道が全線開通した。このことによって郡上市は、環太平洋の玄関となる中部国際空港(セントレア空港)と、今後一層の経済交流が見込める中国・韓国などの玄関となる富山空港をはじめとする氷見港・富山港など、郡上市との距離は2時間圏のエリアにある。いわゆる沿岸地帯としての観光を含めた産業・経済交流が可能な位置にある。さらに大都市圏内にはない日本固有の文化歴史や自然環境に恵まれている。さらに自動車道沿線には、飛騨高山、世界文化遺産の白川郷などがあり、一層の飛躍が可能である。今後は関係県、市が協力してより広域的観光事業を展開する必要がある。

観光地づくりにあつては、今後とも目先の利益ではなく、質的な高まりを主力にしなが、住む人、生きている生活を優先した町づくりを進めていきたい。